

1. 製品及び会社情報

製品名 : サンモルC
MSDS整理番号 : AK-009
会社名 : 旭化成建材株式会社
住所 : 〒101-8101 東京都千代田区神田神保町1丁目105番地
担当部門 : 環境安全品質統括部
電話番号 : 03-3296-3504
FAX番号 : 03-3296-3503
緊急連絡先 : 環境安全品質統括部
電話番号 : 03-3296-3504

2. 危険有害性の要約

GHS分類: 本製品に含有される化学物質の内、GHS分類が明確となっている下記4物質について記す。

(a):結晶質シリカ(遊離珪酸)、(b):酸化アルミニウム、(c):酸化カルシウム、(d):酸化第二鉄

物理化学的危険性

危険有害性項目	分類結果
火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外(a),(b),(c),(d)
自己反応性化学品	分類対象外

危険有害性項目	分類結果
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外(a),(b),(c),(d)
自己発熱性化学品	区分外(a),(b),(c),(d)
水反応可燃性化学品	区分外(a),(b),(c),(d)
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	区分外(b)
有機過酸化物質	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

危険有害性項目	分類結果
急性毒性(経口)	区分外(b)、区分5(c)
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:気体)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類対象外
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分1C(c) 区分2(d)
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1(c) 区分1(d)
呼吸器感作性	分類できない

危険有害性項目	分類結果
皮膚感作性	区分外(c)
生殖細胞変異原性	区分外(a)
発がん性	区分1A(a)、区分外(b),(d)
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	区分1(呼吸器系)(a),(c) 区分2(全身毒性、消化器)(c) 区分3(気道刺激性)(b),(d)
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)	区分1(呼吸器系、腎臓)(a) 区分1(肺;吸入)(b) 区分1(呼吸器系)(c),(d)
吸引性呼吸器有害性	区分1(c)

環境に対する有害性

危険有害性項目	分類結果
水生環境急性有害性	区分外(c)

危険有害性項目	分類結果
水生環境慢性有害性	区分外(c)

(参考) <GHS分類結果の用語の定義> (独立行政法人 製品評価技術基盤機構、GHS解説用語集より引用)
分類できない : 「データがなく分類できない」又は「データ不足のため分類できない」のどちらかであり、

- 「データがなく分類できない」とは、分類マニュアルに記載されているデータリソースを検索してみたが、分類の判断を行うためのデータが全く得られなかった場合であり、
- 「データ不足のため分類できない」とは、分類マニュアルに記載されているデータリソースを検索してみたが、分類の判断を行うのに十分な情報が得られなかった場合である。

分類対象外 : GHSでの定義から外れている物理的性質のため、当該区分での分類の対象となっていないもの。(例えば、危険有害性区分が「〇〇性固体」となっているもので、常態での性質や物性が液体や気体のもの。)

区分外 : 分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行ってみたいところGHSで規定する有害危険性区分において一番低い区分より更に低い危険有害性であった場合。

AsahiKASEI

旭化成建材

製品安全データシート

製品名: サンモルC
MSDS整理番号: AK-009
作成: 1995/9/25
改訂: 2011/4/1

2/6

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



健康有害性

感嘆符

腐食性

注意喚起語

: 危険、警告

危険有害性

: 飲み込むと有害のおそれ、重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷、皮膚刺激、
重篤な眼の損傷、発がん性のおそれ、
(結晶質シリカそのものの発がん性を示す知見は得られなかったが、じん肺有所見者に
肺がんリスクの上昇が認められる との提言あり。)

臓器(呼吸器系)の障害、(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ

臓器(全身毒性、消化器)の障害のおそれ、

長期に吸入するとじん肺に罹る危険性がある

長期または反復暴露による臓器(呼吸器系、腎臓)の障害

長期または反復暴露による臓器(肺;吸入)の障害

飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

: 必要に応じて個人用保護具を着用すること。
保護手袋および保護眼鏡/防護面を着用すること。
接触した水は弱アルカリ性を呈するため、環境に影響を及ぼさない様に
注意する。

分類の名称(分類基準は日本方式): 分類基準には該当しない。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

種類 : セメント系目地材

主要構成物の名称、化学式 :

本製品は、各種原材料の混合物であることから、各原材料に含まれる化学成分を列挙する形で以下に示す。

名称	化学式	(含有率)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS-No.
非晶質シリカ	SiO ₂	(25~40%)	1-548	7631-86-9
結晶質シリカ(遊離珪酸)	SiO ₂	(2~5%)	1-548	14808-60-7
酸化アルミニウム	Al ₂ O ₃	(3~8%)	1-23	1344-28-1
酸化カルシウム	CaO	(3~7%)	1-189	1305-78-8
酸化ナトリウム	Na ₂ O	(0.3~5%)	1-495	1313-59-3
酸化カリウム	K ₂ O	(0.3~5%)	9-2423	12136-45-7
ケイ酸カルシウム	3CaO・SiO ₂	(20~25%)	1-194	12168-85-3
	2CaO・SiO ₂	(10~15%)		
アルミン酸カルシウム	3CaO・Al ₂ O ₃	(2~6%)	9-2408	12042-78-3
鉄アルミン酸カルシウム	4CaO・Al ₂ O ₃ ・Fe ₂ O ₃	(0.3~1%)	—	—
石膏(硫酸カルシウム)	CaSO ₄ ・2H ₂ O	(0.5~3%)	—	13397-24-5
	CaSO ₄ ・1/2H ₂ O	(0.3~1%)		26499-65-0
酸化第二鉄	α-Fe ₂ O ₃	(0~1%)	1-357	1309-37-1
四三酸化鉄	Fe ₃ O ₄	(0~0.2%)	5-5223	12227-89-3
セルロース、2ヒドロキシプロピルメチルエーテル(メチルセルロース) C ₃ H ₈ O ₂ , xCH ₄ O			(0.3~0.5%)	8-196 9004-65-3

4. 応急措置

吸入した場合 : 速やかに、新鮮な空気のある場所に移し、水でうがいをし、医療処置を受ける。
皮膚に付着した場合 : 速やかに、水で洗い流し、異常があれば医療処置を受ける。
目に入った場合 : 速やかに、流水で15分以上洗眼して、医療処置を受ける。
飲み込んだ場合 : 多量の水を飲ませ、吐かせた後、医療処置を受ける。
応急措置をする者の保護 : 無

5. 火災時の措置

消火剤 : 不要
火災時の特定危険有害性 : 無
特定の消火方法 : 不燃性
消火を行う者の保護 : 不要

6. 漏出時の措置

環境に対する注意事項 :
漏出した時は真空掃除機で吸引するか又はスcoop、箒等で集め、袋等に回収する。
床面等に付着したものは水で洗浄し、濃厚な洗浄水は中和、希釈処置等により、河川等に直接流出しない様に対策をとる。
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 :
大量に流出した時には、回収作業にはゴム手袋、長靴、保護メガネ、防塵マスク等の保護具を着用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
目、皮膚等への接触を避けるため、適切な保護具(手袋、長靴、防塵メガネ、防塵マスク等)を着用する。
局所排気・全体換気 : 換気の良い場所で取扱う。
安全取扱い注意事項 : 取扱い後は、顔、手、口等を水洗する。
袋の場合、破袋等につながるような粗暴な取扱いをしないこと。
保管
適切な保管条件 : 乾燥した場所に保管する。極力、粉塵がたたないようにする。

8. 暴露防止及び保護措置

粉塵
設備対策 : 室内で取扱う場合は管理濃度以下にするために十分な能力を有する換気装置を備える。多量に取扱う場合は集塵機を設置する。
管理濃度 : 作業環境評価基準(最終改正、平成21年3月1日 厚生労働省告示195号)
土石、岩石、鉱物、金属又は炭素の粉じんについて、
 $E = 3.0 / (1.19 \times Q + 1)$
E: 管理濃度 (mg/m³), Q: 当該粉塵の遊離珪酸含有率(%)
許容濃度 :

成分名	日本産業衛生学会	ACGIH ^{※1} 、TLV-TWA ^{※2}
結晶質シリカ	0.03mg/m ³ (吸入性結晶質シリカ)	0.025mg/m ³ (respirable)
ケイ酸カルシウム	—	10mg/m ³ (総粉塵)
酸化アルミニウム	—	10mg/m ³
酸化第二鉄	—	5mg/m ³ (respirable)

※1: ACGIH: American Conference of Governmental Industrial Hygienists: 米国産業衛生専門官会議

※2: TLV-TWA: Threshold Limit Value-Time Weighted Average: 時間加重平均暴露限界閾値
(1日8時間、週40時間の作業に対する時間加重平均濃度)

保護具

状況に応じ、防塵マスク、防塵メガネ、保護手袋、保護衣を使用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态	: 固体
形状	: 粉体
色	: 淡い赤灰色
臭い	: 無
pH	: 水に分散させるとアルカリ性を示す。
沸点	: ー
融点	: ー
引火点	: 無
爆発特性 下限	: 無
爆発特性 上限	: 無
絶乾比重	: 0.5～1.5
溶解度 水	: 難溶性
その他の溶媒	: 不溶

10. 安定性及び反応性

可燃性	: 無
酸化性	: 無
発火性(自然発火性)	: 無
自己反応性、爆発性	: 無
反応性	: 水と反応して安定固化する。

11. 有害性情報

急性毒性	: 飲み込むと有害のおそれあり。
皮膚腐食性・刺激性	: 水と接触すると、アルカリ性(pH12～13)を呈する。 重篤な皮膚の薬傷を引き起こす可能性がある。
眼に対する重篤な損傷性、刺激性	: 重篤な眼の損傷を引き起こす可能性がある。
呼吸器感作性、又は、皮膚感作性	: 現在のところ情報なし。
生殖細胞変異原生	: 現在のところ情報なし。
発がん性	: 製品に含まれる結晶質シリカについては、高濃度の環境で長期間にわたり多量に吸入した場合について以下の情報がある。 ①1997年/IARC:グループ1(ヒトに対して発がん性がある) ②2002年4月11日/日本産業衛生学会:第1群(ヒトに対して発がん性があると判断できる物質) ③2002年8月8日厚生労働省(肺がんを併発するじん肺の健康管理等に関する検討会):結晶質シリカそのものの発がん性を示す知見は得られなかったが、じん肺有所見者に肺がんリスクの上昇が認められる為、じん肺と原発性肺がんは医学的関連性を有しており、原発性肺がんをじん肺の合併症とするの提言がなされた。 ・2002年11月8日厚生労働省(第3回労働政策審議会安全衛生分科会 じん肺部会):上記の提案を妥当と認めた。 ・2003年1月20日厚生労働省令第二号公布:第一条じん肺法施行規則一部改正。「原発性肺がんをじん肺の合併症として追加する」(2003年4月1日施行)

AsahiKASEI

旭化成建材

製品安全データシート

製品名:サンモルC
MSDS整理番号:AK-009
作成:1995/9/25
改訂:2011/4/1

5/6

成分名	IARC※1、1)	ACGIH※2、2)	日本産業衛生学会 ³⁾
結晶質シリカ	group1	A2	第1群
酸化アルミニウム	—	A4	—
酸化第二鉄	—	A4	—

※1 IARC: International Agency for Research on Cancer: 国際がん研究機関

※2 ACGIH: American Conference of Governmental Industrial Hygienists: 米国産業衛生専門官会議

注1) IARC group1: ヒトに対して発がん性がある。

注2) ACGIH A2: ヒトに対する発がん性が疑わしい物質。

A4: ヒトに対して発がん性物質として分類できない物質。

注3) 日本産業衛生学会 第1群: ヒトに対して発がん性があると判断できる物質。

生殖毒性: 情報なし。

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露: 臓器(呼吸器系)の障害のおそれ。

(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ。

臓器(全身毒性、消化器)の障害のおそれ。

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露: 長期または反復暴露による臓器(呼吸器系)の障害のおそれ。

長期または反復暴露による臓器(肺;吸入)の障害のおそれ。

長期または反復暴露による臓器(腎臓)の障害のおそれ。

吸引性呼吸器有害性: 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

12. 環境影響情報

環境影響・生態毒性: 現在のところ情報なし。

接触した水は弱アルカリ性を呈するため、環境に影響を及ぼさない様に注意する。

残留性／分解性: 現在のところ情報なし。

生体蓄積性: 現在のところ情報なし。

土壌中の移動性: 現在のところ情報なし。

13. 廃棄上の注意

廃棄規制の注意: 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、許可を受けた業者に委託する。

14. 輸送上の注意

輸送の特定の安全対策及び条件: 粉塵のたたない方法で輸送する。

破袋、損傷、容器からの洩れ、荷崩れ等の防止を確実に行う。

湿気、水漏れに注意する。

15. 適用法令

労働安全衛生法、粉じん障害防止規則、じん肺法、作業環境測定法、
廃棄物の処理及び清掃に関する法律

16. その他の情報

本製品安全データシート(MSDS)は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。又、MSDS中の注意事項は通常の取扱を対象にしたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は、用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。又、当社は、MSDS記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。

<引用文献>

- 1) 15107の化学商品(2007年1月、化学工業日報社)
 - 2) 化審法化学物質(改定第7版、2007年2月、化学工業日報社)
 - 3) 国内外における化学安全性規制ガイド(1991年2月)
 - 4) ザックス有害物質データブック(平成2年3月)
 - 5) KIS-NET(Kanagawa Information System for Chemical Compounds)
 - 6) 2010 ACGIH Threshold Limit Value(TLVs)
 - 7) 許容濃度等の勧告(2010年度) 産業衛生学会誌Vol.52、221(2010)
 - 8) IARC Monograph Vol.68(1997)
 - 9) 第3回労働政策審議会安全衛生分科会じん肺部会資料
(2002年11月8日、厚生労働省のインターネット上のホームページより)
 - 10) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHSデータベース(2007.3.31現在)
-